

「耕作放棄地を解消し、里山を再生。過疎地域に賑わいを。」事業

Toyooka AgRestart

1 事業目的

人口減少・少子高齢化において、地方都市の担い手が不足し活力が失われている。この状況は今後も続き、農地を含む里山の荒廃が進んでいく。地域や農地の担い手が減少している地域の耕作放棄地を解消し、兼業農家や非農家が持続可能な形で農地を担い、都市部からの体験交流を促し活力を創造する。

兼業農家や非農家が手を取り、地域農業を通じた地域の活性化につなげる「農ある暮らしの再発見」を通じて、持続可能な地域づくりを展開する。地域固有の取組みであるコウノトリとの共生や支えあう地域づくりを社会実装する。

2 活動内容

(1)里山の再生(耕作放棄地の解消・地域住民との交流)

人口減少、少子高齢化に起因する地域の担い手不足による農地荒廃を解消し、県民の美しい農村を次代に繋ぐ。兼業農家の相談会も定期開催。



(2)「農ある暮らし」の再発見事業

人口減少や農業を取り巻く厳しい環境(農産物の取引不安定等)により離農が増える地方農業の担い手を維持するため、兼業農家や非農家の農業への接点づくりを展開する。神河町のゆず収穫ボランティアイベントや加工から販売の仲介などを実施。各所で柿が大豊作であったが、放置される方が多く、熊が出没する危険性もあり、収穫ボランティア実施。



3 成果・課題点

成果:活動エリアの耕作放棄田 21 枚約 1.9ha を復田し、地域や地権者へバトンを渡しました。地権者や地域が農地の維持に対して意欲的に取り組まれることとなりました。地域の離農した兼業農家や非農家の方々に、農業に关心を持っていただける機会となり、活動に关心を持っていた方が増えました。

課題:社会課題となっている地方農業の衰退(担い手不足、耕作放棄地増、共同作業の衰退、食料自給率問題等)について、具体的な解決策を提案し、実装する推進役が必要であり、周知不足。

4 今後の展望・成果の活用

2025 年度参画者に継続して関わってもらえるよう SNS 等でコミュニティ化し、活動情報を共有。対外的な情報発信力も向上させる。地域コミュニティ組織との連携を深め、住民主体の活動とし、伴走支援体制を強化。組織の法人化。